昭和36年1月16日第3種郵便物認可　昭和48年5月1日第187号（毎月1回1日発行1部20円）

NO.187

全仏

5/48

（仏教鑽仰会の花まつり会で公演された日蓮宗の声明
—4月14日・日比谷公会堂）

財団法人　全日本仏教会

全仏
第3種郵便物認可
昭和48年5月1日

池上本門寺大会

大会要項を発表

来る六月二十六・七両日、東京池上本門寺を会場に開催される第二十一回全日本仏教徒会議（全仏結成二十年記念、池上本門寺大会）は、大会準備委員会（酒井謙祐委員長）の諸氏によって準備が進められてきたが、先月中旬に開催要項およびポスターが発表され、直ちに加盟各団体に発送された。

また、近日中に大会準備委員会は解散し、新たに大会実行委員会が発足することになる。

なお、大会事務局嘱託としてお願いしていた阿部顕瑞氏は法務の事情でご都合がつかず、代って田島章成氏が福井清俊氏とともに事務処理に当ることになった。

……

（趣　旨）

人類発生以来一〇〇万年の歴史の中でこの一、二世紀の変動ほど激しいものはない。四五億に人口が増加した時点の世界では三億人の餓死者を生むと計算されているし、「科学」「技術」の加速度的発達は大気と水質の汚染をもたらし、消費の増大による廃棄物の驚くべき増加、しかも閉鎖された地球の資源は刻々に枯渇しつつあり、われわれを取りまく生存のための諸条件は最悪のものとなっている。人類はどうあるべきかの問題は上部構造としての政治、経済、社会は勿論、総合的展望と把握の上に立って人間的、精神的な解決を必要としている。われわれは科学的立場を理解しつつ、仏教の真髄を現代に生かし人類の危機救済に役立てるべきである。それには仏教徒自ら深く反省し自覚すると共に仏教に対する一般社会の認識を改めるよう努力しなければならない。

仏教学の近代化への脱皮と、これを基礎とした新しい布教伝道、仏教国を多くもつアジアの開発と平和の確立、環境保全と福祉社会の建設等、現下の仏教界がなすべき重要問題が山積みしている。第一回大会より数えて二十年にならんとしている今ここに、第二十一回全日本仏教徒会議を東京・池上本門寺で開催するにあたり、

〃人類の危機を救おう　仏教で〃

のスローガンのもと仏教徒が一致協力して当面する諸問題の具体策を樹立し、菩薩道の実践に力強く出発しようとしている。各位の積極的な参加を期待するものである。

昭和四十八年四月

全日本仏教会
東京都仏教連合会
大本山池上本門寺

―――― 要　項 ――――

一、大会スローガン

〃人類の危機を救おう　仏教で〃

二、会議テーマ

宗派代表者会議

「人類の危機を救おう仏教で」

都道府県仏代表者会議

「全一仏教運動の高揚と組織強化」

部会一、「アジアの開発と平和の確立について」

二、「環境保全と福祉社会の建設について」

三、「これからの布教伝道について」

四、「時局対策について」

五、「全一仏教運動の推進について」

三、大会日程（会場・池上本門寺）

第一日　六月二十六日

九時　受付開始
十時　大会式典
十一時半　総　会
十二時　昼食休憩
十三時　会　議
十七時　レセプション

第二日　六月二十七日

九時　受付開始
十時　総　会
十二時　閉会式

四、議案提出方法

一、原則として加盟各宗派、各都道府県仏教会、各種団体において討議し決定したもの一議案を部会を指定して提出することができる。

二、提出期限　五月三十一日までに全仏大会事務局宛提出して下さい。

五、参加方法

一、資　格　加盟団体の推薦する代表

者。

二、参加費　一、五〇〇円　既納金は理由の如何にかかわらず返戻しません。

三、締切日　五月三十一日

四、申込書に参加費を添え、部会を指定して、全仏大会事務局宛お申込み下さい。

（ただし、原則として所属団体事務所にて取りまとめてお申込み下さい）

五、宿泊の準備はありません。

"人類の危機を救おう仏教で"

―大会スローガンに寄せて―

真渓義貫

財団法人全日本仏教会は、ここに発足二十年を迎えた。もちろんその背後には六十余年にわたる歴史を持ち、それぞれの時代にわが国仏教界の発展に大きな足跡を残してきた。しかし、特にこの二十年間は占領政策としての一環による宗教行政がわが仏教界に大きな影響を与え、仏教界がまだ経験したことのない新しい一頁であった。政教の分離、信教の自由という鉄則は、それぞれの宗教活動に自主性を付与し、大衆が支持するもののみが存在する環境を醸成したことは確かに好ましいことではあるが、この新しい体制に転換されるに当って生起された数々の極めて困難な問題の適正な処理対策は決して容易なことではない。全日本仏教会が冷静な態度を持ちつつ、高い識見と勇気をもってことに当り、今日の安定した教界を確立した功績は高く評価されるべきであろう。

これは多くの人々の協力と、全一仏教運動の展開に力を注いだ数々の故人の貢献の賜物である。ここに改めて深く感謝の誠を捧げると同時に、この機会に現下の仏教界が当面する重要な諸問題について全仏教徒の代表が衆知を集め、固い決意をもって解決を図り、もって全仏発足二十年を意義あるものとしたいと衷心より念願するものである。

人類発生以来百万年の歴史のなかで、この一、二世紀の変動ほど激しいものはない。核戦略体制のシーソーゲームによって人類は滅亡するであろうと虚無感に打ちひしがれた一時も、悲惨極まりない日本における予行演習を経て、一応現在では絶滅へのコースは凍結されたとは言え、このような人間的選択がいつまでも確保されるという保障はどこにもない。

現在の人口三六億二二〇〇万は、紀元二〇〇〇年に七五億二〇〇〇万と爆発的な増加をするのに比べて七〇年代の終りには四五億に人口が増加すると予想されこの時点の世界では、三億人の餓死者を生むと計算されているし、科学、技術の加速度は工業生産の増大、したがって莫大なエネルギーの消費により大気と水質の汚染、消費の増大による廃棄物の驚くべき増加、しかも閉鎖された地球の資源は刻々に枯渇している等々、われわれを取りまく諸条件は最悪のものとなっている。

人間を含めてすべての生物のその遺伝子に規定された環境への適応限界を今や超えようとしている。このことは正に人類の危機である。社会の変動がゆるやかであった時代においては、素朴な心情的平穏さにおいて生死双方を肯定し、知的な解脱を願うことでこと足りたといえよう。しかし地球上の人間という生物が、地球をどうにもならないほど汚して、自分自身をも滅ぼそうとしてしまっている現在では、今や人類そのものを救う観点に立たざるを得ない時代である。

科学や技術はフィドバクによる修正の方法を取りはじめ、ハードウェアー一辺倒から脱して人類愛、人間性を組み込んだソフトサイエンスに転向しつつある。しかし科学だけで解決しきれる問題ではない。上部構造としての政治、経済、社会はもちろん、人類はどうあるべきかの問題は総合的展望と把握のために人間的精神的な立場が大きくかかわりを持たねばならない。すべてのものは流動し、変化する。永遠の物質といわれたものも分子から原子、元素へと分解され、さらに元素もまた変化を免がれることはできない。不変の物質は最後に運動量にまで分解されて拡散してゆく。

仏教は現代物理学が究極的にあらわしつつある宇宙像とパターンを同じくし、一切は流動し変化し、そして独立で存在する何ものもないとする「空」の思想であるが、今日その大部分がかくされてしまってはいるが死んではいない。われわれは科学的立場を理解しつつも仏教の真髄を現代に生かし、人類の危機救済に役立てるべきである。「人類の危機を救おう、仏教で」のスローガンを高く掲げて。

したがって、仏教学も近代化への脱皮が必要であり、これを基礎とした新しい布教伝道も緊要である。またアジアの動向は世界を支配するといわれているが、仏教国を多く持つアジアの開発に、また人間の生存する限界をはばみつつある諸々の環境の除去整備、すなわち福祉社会の確立に仏教がなすべき重要な問題が山積みしている。すなわちこれらの諸問題の具体策を樹立し、菩薩道の実践に力強く出発しようとするのが、この仏教徒代表者会議の目的である。

（文化専門委員長）

新局制でスタート

全仏事務総局

全仏事務総局では、今年度より局制を一部変更し、従来、組織局にあった文化部を国際局に移し国際文化局とした。

これは昨年八月、全仏機構改正案起草委員会より提出された第二次案（全仏第一八〇号既報）に沿って実施されたもので、総務局（財務部、庶務部）組織局（組織部）、国際文化局（国際文化部）の三局四部となった。

新人事は次の通りである。

事務総長　麻布　照海
事務次長　桜井　大乗
総務局長　鱒淵　正浩
組織局長　新間　信雄
国際文化局長　柳　了堅
財務部長　和田　龍宏
庶務部長　小峰　令丸
組織部長　岩脇　宏信
国際文化部長　黒川　孝樹
主事（財務）　林　恵智子
主事（〃）　樹谷　淳宣
主事（庶務）　杜多　茂夫
主事（組織）　北山　孝雄
主事（国際）　名倉　好子
主事（文化）　服部　光順
書記（財務）　菅野　孝江
雇員（庶務）　渡辺　弘子

なお、前財務部長小沢照禧師は三月末日で退職し、新たに小峰令丸師が庶務部長として四月一日付新任した。

関東甲信越静ブロック会議

二十五日に開催

今年度の同ブロック会議は来る五月二十五日、鬼怒川温泉にて開催することが決まった。四月中に提出された議案について、同日午後会議に計られるが、今年の全仏大会には都道府県仏代表者会議がもたれる折から、種々貴重な問題が提起されるものと期待される。

講習会紀要出来る

さる三月五日開催した第十七回全仏中央講習会は、文化庁の後援を得て、宗教法人の管理運営および税務についてそれぞれ掌握官庁の事務官の出講により、充実した講習会であった。

その講習会の全容を収録した紀要が、（株）野村証券のご好意によりこの程でき上がった。B五版六十頁で、基調説明のほか質疑応答および参考資料として関係法抜萃、関係書式等が収められ、わかりやすい説明カットもあって非常に読みやすいものとなっている。

智山派宗務総長　別所　弘因師

田中隆恵前総長の任期満了により、新たに別所弘因師が宗務総長に就任された。師は埼玉県法光寺住職で、元全仏総務、文化部長をつとめられた。なお前全仏財務部長の小沢照禧師は別所内局の総務部長に就いた。

黄檗宗新管長　安部師

加藤慈光前管長の逝去にともなう後任管長選挙の結果、四月一日、第五十六代管長に安部禅梁師が就位された。師は滋賀県出身　七十六歳。任期は五年である。

日蓮宗声明の公演

日本仏教鑽仰会恒例の花まつり（全仏後援）は去る四月十四日、日比谷公会堂において日蓮宗の声明および涅槃交響曲の特別公演で開催された。

日蓮宗声明師会および雅楽会の三十数名による声明は、日頃の研鑽の上に、この日のために半年も舞台用に練習を積まれただけあって、集まった聴衆に深い感銘を与え、最後に舞台を飾った美しい花の鉢を参会者にプレゼントして終了した。

ルンビニー開発国際委員会委員長来局

エカフェ総会にも議案上提

第二十九回国連アジア極東経済委員会（エカフェ）が東京プリンスホテルを会場に開かれたが、その開催中の四月十七日午前九時半より、ネパール国のタクール駐日大使の要請によりルンビニー開発に関する説明会が同ホテルに関係者多数を招じて開かれた。

ルンビニー開発の件は本エカフェ総会で審議される議案の一つであるが、席上すでに準備委員会に上程されて通過した本件が説明され、全仏より出席した麻布事務総長が、今日までの経過をもとに全仏の本問題に関する基本姿勢を明らかにした。

麻布総長談「私は全日本仏教会の事務総長であります。このルンビニーの仏跡復興については、二、三度お話しをうけたまわりましたが、先き程のご説明でいろいろと計画が整備され、ことに各宗派を越えてのミーティングの場ができるな

ど誠によい計画と思います。私は、釈迦が世界の聖人の一人として人間性回復または人類、社会の平和のため一生を捧げられた仏陀の誕生地の復興は是非敢行すべきと思います。全仏では今日まで二、三度交渉がありましたが、これが敢行されるときには全仏の諸機関にはかり協力することになると思います。ありがとうございました」

これを受けて翌十八日午後三時半、ネパール国の国連大使兼ルンビニー開発国際委員会のウパディヤ委員長が、タクール大使とともに全仏を訪問され、麻布総長、柳国際局長、伊藤輪番をはじめ各部長らと懇談した。

席上、ウパディヤ国連大使は、「エカフェ総会でルンビニー開発が正式議案として取り上げられたのは、この問題が仏教をテーマとしているものだけに注目に値します。私共は明日の委員会でこの議案が通過するよう目下インド、パキスタン、スリランカ等の関係諸国に働きかけています。一方ルンビニー開発の援助を日本で強く推しすすめるために皆様方の大きな援助を要請します。そのためにも日本での本問題を推進する国内委員会が一日も早く結成されるよう望んでいます。現在モジー外務大臣が日高元大使に会ってお願いしておりますが、私共が帰国する二十三日までにも国内委員会が結成されるよう願っています。この開発問題はかつてユネスコにも要請しましたがユネスコは遺跡等の保存が主目的であって、開発と建設を伴う本件は残念ながら取り上げられませんでした。私共は短い滞在中に万国博のファンドからも援助してもらうよう働きかけていますが、その資金は準備調査の段階で必要な五十万ドルの一部にあてたいと思っています」とルンビニー開発日本国内委員会の結成を強く要望された。

これにこたえて全仏では、「すでに一昨年の常務理事会において、ルンビニー開発の協力について承認されているが、勧募の面からも国民一般の運動に盛り上げるため、財界筋を中心に各界を網羅した委員会が結成された段階で、その呼びかけに応じて運動をしましょう」と約した。

ウパディヤ委員長（中）、タクール大使（右）と懇談する麻布事務総長（後姿）

インド日本寺落慶

財団法人国際仏教興隆協会が釈尊成道の聖地ブダガヤに建設中のインド日本寺は本年12月落成の運びとなり、12月1日から10日まで各宗・各団体によって現地で毎日慶讃法要が営まれます。

12月8日には全日本仏教会によって落慶式が厳修されます。

詳細は下記の取扱旅行会社にお問い合せ下さい。

――指定取扱旅行会社――

国際旅行業協会会員

運輸大臣登録一般154号

株式会社 千代田トラベル

東京都港区南青山5丁目6番20号（千成ビル）

電話407―3612（代）・400―5100　郵便番号107

全仏
第3種郵便物認可

昭和48年5月1日

インド日本寺落慶式
全日本仏教会主催法要団日程

日数	月日	時間	発着都市名	交通機関	摘要
1	12月 3日(月)	12：30 20：15	東京発 カルカッタ着	AI/303	インド航空でカルカッタへ (カルカッタ泊)
2	4日(火)	10：55 13：10	カルカッタ発 カトマンズ着	RA/203	ネパール航空でカトマンズへ 着後市内を小観光してホテルへ(カトマンズ泊)
3	5日(水)		カトマンズ滞在		(ご希望の方はヒマラヤ遊覧飛行へ) カトマンズとパタンのヒンズー、ラマ、仏教寺院など見学 (カトマンズ泊)
4	6日(木)	12：00 12：50	カトマンズ発 パトナ着 パトナ発 ラジギール着	IC/246 バス	出発まで自由行動 インド国内航空でパトナへ 着後バスでパタリプトラ跡、ナーランダ大学跡を見学して、ラジギールへ (ラジギール泊)
5	7日(金)		ラジギール発 ブダガヤ着	バス	早朝霊鷲山々頂で暁天参拝 竹林精舎、ビンビサラ王幽閉の跡など見学 バスで成道の地ブダガヤへ (ブダガヤ泊)
6	8日(土)		ブダガヤ滞在		ギリ大統領の臨席を得て、インド日本寺落慶式厳修 (ブダガヤ泊)
7	9日(日)	14：20 19：40	ガヤ発 ムガールサライ着	129列車	大塔、尼蓮禅河参拝 午後、列車でムガールサライへ バスでベナレスへ (ベナレス泊)
8	10日(月)	23：25	ベナレス発	列車	早朝ガンジス河で沐浴見学 初転法輪の地サルナート参拝 ベナレス市内見学、ヒンズー大学等夜行列車でゴラクプールへ (車中泊)
9	11日(火)	05：22	ゴラクプール着 クシナガラ滞在		着後涅槃の地クシナガール参拝 涅槃堂等 (クシナガラ泊)
10	12日(水)	10：00 12：20 18：16 21：37	ゴラクプール発 ノーガル着 ノーガル発 バルランプール着	列車No.183 列車No.185	列車でノーガルへ 降誕の地ルンビニ参拝 再び列車でバルランプールへ(バルランプール泊)
11	13日(木)	15：00 18：00 20：40	ゴンダ発 ラクノー着 ラクノー発	列車No.1 急行	祇園精舎、舎衛城跡参拝 バスでゴンダに出て、列車でラクノー経由アグラへ (車中泊)
12	14日(金)	09：52 16：25 17：00	アグラ着 アグラ発 デリー着	IC/408	着後タジ・マハール、アグラ城、アジア救ライセンター訪問、インド国内航空でデリーへ(デリー泊)
13	15日(土)		デリー滞在		終日 ニューデリー、オールド・デリーの見学 (デリー泊)
14	16日(日)	07：45 22：40	デリー発 東京着	AI/310	インド航空310便でデリー発 帰国

インド日本寺落慶式
法要団員募集中

既報の通り、インド日本寺の落慶式は十二月八日、全仏が主催して佐藤会長猊下大導師のもと、インド国ギリ大統領も列席して厳修されるが、現在この落慶法要団を募集している。多くの方々のご参加をおすすめします。

期日 昭和四十八年十二月三日～十六日(十三泊十四日)
経費 金三十二万円
募集人員 四十名
締切日 五月末日
申込先 全日本仏教会国際文化局宛

事務総局録事(四月)

四日 局内会議
七日 「全仏」発送
〃 文化会議打合会
九日 局内会議
十一日 宗連幹事会出席
十三日 パナティッサ師来日、出迎
十四日 千葉県仏役員総会出席
〃 西本願寺慶讃法要参列
〃 仏教鑽仰会花まつり後援
十五日 東本願寺及仏光寺慶讃法要参列
十七日 大会準備正副委員長会議
〃 ルンビニー開発説明会(東京プリンスホテル)出席
十八日 ネパール大使及ルンビニー開発委員長来局
二十日 局内会議
〃 大会準備委員会
〃 ネパール大使館レセプション出席
二十四日 平和会議日本委・青年部会
二十五日 WFBY事務総長来日
〃 事務局懇談会(自民党)
二十六日 長野県仏教徒会議出席
〃 文化会議運営委員会

昭和四十八年五月一日発行
五月号 第一八七号
発行人 麻布照海
編集人 柳了堅
発行所 財団法人 全日本仏教会
東京都台東区西浅草一ノ五ノ五(東京本願寺内)
電話〇三(八四三)六三四一～三